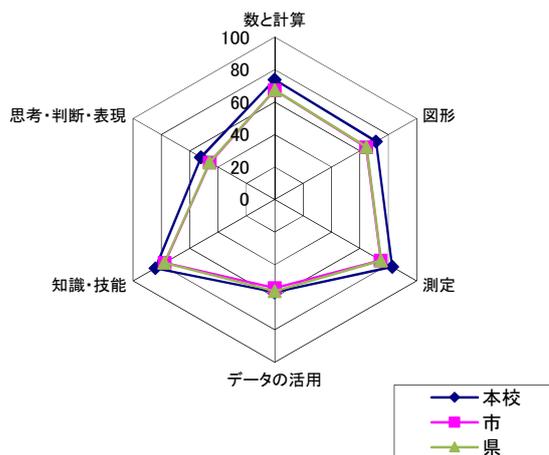


# 宇都宮市立富士見小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.8	67.3	67.4
	図形	71.4	64.5	64.7
	測定	82.7	74.7	74.9
	データの活用	57.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	84.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	52.1	45.8	46.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○本領域の平均正答率は73.8%で、県の正答率を6.4ポイント上回った。</p> <p>○「小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ」問題の平均正答率は97.2%で、県の正答率を9.8ポイント上回った。</p> <p>●「式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する」問題の平均正答率は、14.0%で県の平均を0.4ポイント上回っているものの、低い正答率となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算技能の向上を目指して、朝の学習などの時間を利用して、繰り返し練習問題に取り組む。</li> <li>位をそろえて計算したり、数の大きさを考えたりすることができるよう、整数だけでなく小数を扱う単元においても位取りに留意して問題を解けるよう指導する。</li> <li>問題を筋道立てて考えられるよう、計算の工夫や応用問題などの発展的な学習を丁寧に扱っていく。</li> </ul>
図形	<p>○本領域の平均正答率は71.4%で、県の正答率を6.7ポイント上回った。</p> <p>○「円の半径と直径について正しいものを選ぶ」問題の平均正答率は、89.7%で県の正答率を8.6ポイント上回っている。</p> <p>●「円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する」問題の平均正答率は48.6%で、県の平均を15.2ポイント上回っているものの、低い正答率となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円と球については、直径、半径の長さから図形がイメージできるように、ICTなどを活用し平面図や断面図などに表して形を捉えられるようにしていく。また、実物を使って球の直径を箱の縦や横に対応させて調べる活動も取り入れながら知識や技能の定着を図っていく。ICTや実物を活用することで立体を捉えやすくし、平面⇄立体をイメージできるような力をつけさせていく。</li> <li>課題について筋道立てて考え、それを表現する力が身に付くような授業を展開する。具体的には、自力解決の場面で自分の思いや考えをもつことができるよう支援し、それを表現したり広げ深めたりできるような対話的活動を設定する。</li> </ul>
測定	<p>○本領域の平均正答率は82.7%で、県の正答率を7.8ポイント上回った。</p> <p>○「地図から道のりを読みとって、その和を求める」問題の平均正答率は92.5%で、県の正答率を4.5ポイント上回った。</p> <p>●「はかりの目盛りを読みとり、重さを答える」問題の平均正答率は60.8%で、県の平均を9.7ポイント上回っているものの、低い正答率となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はかりの目盛りを読む指導の際には、「最大量を確認する→一目盛りを確認する→中目盛りを確認する→最小目盛りを確認する」の手順を丁寧に指導をしていく。また、実際にいろいろな物の重さを量ったり、単位の仕組みについてまとめたりする活動を通して、はかりの目盛りの読み方について慣れさせ定着を図っていく。</li> <li>授業後も宿題の内容を工夫し、プリントやドリル等で復習する機会を設ける等、習熟できるように指導する。</li> </ul>
データの活用	<p>●本領域の平均正答率は57.0%で、県の正答率を0.6ポイント上回っているものの、低い正答率となった。</p> <p>○「棒グラフを読みとり、2番目に多かったスポーツを答える」問題の平均正答率は94.4%で、県の正答率を5.2ポイント上回った。</p> <p>●「2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ」問題の平均正答率は19.6%で、県の正答率を4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒グラフを読み取る活動では、1目盛りの数の大きさに着目できるように、目盛りに示された数値と数値の大きさを何等分しているかを考えさせる活動を充実させる。</li> <li>数量の差を捉えさせる際には、棒の長さに着目できるように1目盛りが1を表すグラフを中心に扱い、それぞれの縦軸の目盛りの数の違いを正確に読み取る力を付けていく。その後、1目盛りの数値を大きくするなど、段階的な指導を充実させる。今後、さらに定着が図れるよう、他教科と関連付けながら表や棒グラフなどのデータを活用する活動を取り入れていく。</li> </ul>